日本近代文学会　2023 年度春季大会　２日目　タイムスケジュール

			第一会場：１７号館４階 １７４０９教室	第二会場：１７号館５階 １７５１０教室	第三会場：１７号館５階 １７５１２教室
10:00	-	10:45	呉　勤文 訳詩「グレー氏墳上感慨の詩」が育んだ創作――国木田独歩の新体詩について――	小堀　洋平 「蒲団」のなかのファウスト――ファウスト主題の流通と変容のなかで――	平石　岳 夏川静江のために　――蘆花没後における「灰燼」のメディアミックス――
10:45	-	11:30	武久　真士 定型詩による《参加》と《動員》 ――佐藤一英「聯」論――	邱　政芃 「転向文学者」の新聞小説と台湾日日新報 ―武田麟太郎の連載・転載作品を中心に―	杉本　裕樹 〈爆撃幻想〉の文学 ――戦時体制下日本の娯楽小説――
11:30	-	12:10	解　放 安部公房の初期作品にみる GHQ による検閲の痕跡 ――「去勢」されたテクストの意味合い――	乗木　大朗 福永武彦『風土』と二つの〈海彼岸の戦争〉 ――堀辰雄からの〈脱却〉の内実――	荒瀬　康成 宗教思想の翻訳と土着化 ―遠藤周作「母なるもの」論―
12:10	-	13:10	昼休み		
13:10	-	13:55	山根由美恵 村上春樹とブローティガン ――「めくらやなぎと眠る女」論――	秦　光平 〈いじめ〉の当事者になるということ ――千刈あがた『黄色い髪』論――	邢　亜南 『ゴットハルト鉄道』における様々な「翻訳」的営為
13:55	-	14:40	宗左近の〈戦争の記憶〉と〈縄文〉言説 大川内夏樹 （パネル代表者） 稲田大貴 大場健司	「地図という試練」 ――戦後日本文学という地理空間のかなたで 佐久本佳奈 （パネル代表者） 渡邊英理 君島朋幸 大畑凜	矢吹　文乃 アダプテーションと〈正統〉の記号 ――寺山修司『あゝ、荒野』に関わる森山大道の写真の位置づけ―
14:40	-	15:20			林　圭介 「僕」を棄てる ――村上春樹『騎士団長殺し』論――
		15:55			
15:55	-	16:00	・閉会の辞（　島村　輝　）		